

Title	日本医療制度の現状と発展の方向性-新規医療の安全・迅速な導入検討-
Sub Title	
Author	今村利朗(Imamura, Toshirou) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1662号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1662

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	田中滋 研究室	学籍番号	80028098	氏名	今村 利朗
(論文題名)					
<p>日本医療制度の現状と発展の方向性 —新規医療の安全・迅速な導入検討—</p>					
(内容の要旨)					
<p>日本の公的保険制度は、共助連帯の精神に基づき参入規制と価格規制による統制のもとに運用されている。医療は財の特徴として、派生財、不確実性、外部性、情報の非対称性、また価値財としての性質を持つ。そのため、市場の失敗を起こさずにニーズによる分配を行う目的で一定の規制が必要ではあるが、世界的にも優れているこの保険制度にも環境変化により時代の要求にそぐわない点がでてきた。環境変化とはすなわち、少子高齢化、医療技術進歩、医療保険財源問題、疾病構造変化、国民（住民）思想の変化によるニーズの多様化である。</p> <p>本論文では、重要であるにもかかわらず各界での議論が不十分である価格規制緩和に関する問題、具体的には公的保険未適用の新規医療を現行制度と整合性を保ちつつ安全、迅速に導入する検討を行った。</p> <p>現在関連諸制度等には、特定療養費制度の中の高度先進医療、医薬品・医療機器の治験制度、遺伝子治療ガイドライン、倫理規定がある。まずこれら諸制度を、患者（被験者）の人権保護思想と費用分担のマトリックスで分析し、人権保護思想のもとでの費用分担方法の検討をした。さらに現行諸制度では不備である分野の抽出を行った。</p> <p>次に、新規医療導入の際に現行制度と最も整合性がとりやすく効率的な方法として、特定療養費制度を拡大するシステム設計の検討を行った。新規医療のうち治療を有効性と安全性の二軸によるマトリックスで区分することを提案し、公的保険の範囲と特定療養費の範囲、治療として存在すべきでない範囲とに明確に分けることが可能であることを示した。制度運用面では、必要な基盤整備に関して時系列で分解して検討・提案した。</p> <p>最後に上記の提案に関して予想される影響に関する考察を加えた。</p>					